

## 一般講演Ⅳ

座長：岡田 弘（獨協医科大学埼玉医療センター）

### ㊦ 女性泌尿器科クリニックにおける 清心蓮子飲処方の実際

女性医療クリニック LUNA 心斎橋<sup>1)</sup>  
LUNA 骨盤底トータルサポートクリニック<sup>2)</sup>  
大阪市立大学大学院医学研究科泌尿器病態学<sup>3)</sup>

二宮 典子<sup>1) 3)</sup>、大林 美貴<sup>1)</sup>、中村 綾子<sup>2)</sup>  
関口 由紀<sup>2)</sup>、仲谷 達也<sup>3)</sup>

#### 【背景】

女性泌尿器科において、頻尿・排尿時痛はよく遭遇する主訴である。抗コリン剤無効の頻尿患者や、検尿などで明らかな尿路感染がない場合の排尿時痛患者や、精神的なストレス下で頻尿を訴える患者は西洋薬に効果がないことも多く、このような場合に医療用漢方エキス製剤を選択する。中でも清心蓮子飲は比較的体力の低下したものが排尿困難・残尿感・排尿時痛を訴える際に使用する薬剤で、前述したような尿路症状に有効性が高いと考え、処方を行っている。

#### 【方法】

当院の女性泌尿器科および婦人科外来でツムラ清心蓮子飲エキス顆粒を処方した患者を抽出し、処方人数・年齢・主訴・効果・副作用について後ろ向きに調査を行なった。

#### 【結果】

2017年1月から12月の1年間で処方した患者はのべ200人であった。処方人数は77人、平均処方回数は2.5回、平均年齢は45.3歳(16-84歳)であった。月別の処方数では5月が24名と最多で12月が11名と最低であった。患者の主訴(重複あり)は頻尿が75%、排尿時痛が30%、残尿感が25%であった。80%以上に有効であり、5回以上繰り返し処方をおこなったものは77名中10名であった。服薬による重篤な副作用は認めなかった。

#### 【考察】

清心蓮子飲は「和剤局方」に原典があり、全身倦怠感があり、口や舌が乾き、尿が出ししぶるものの残尿感・頻尿・排尿時痛に有効である。女性泌尿器科の臨床現場では、急性膀胱炎後に残尿感や排尿時痛が遷延する患者や、抗コリン剤では効果不十分な過活動膀胱患者に投与し、有効である症例が多かった。また、寒冷刺激による頻尿には無効なことが多く、ストレス・緊張などが契機となる頻尿には有効であるものが多かった。処方の傾向に季節性の変動がみられた理由として、清心蓮子飲が寒冷による膀胱刺激症状よりも、ストレス性の頻尿に効果が高いため、処方数が春から夏に増加し、秋から冬に減少する結果となったと考えられた。